

2025年9月



# 40010地域ビジネスキャンプ

## テーマ：食と観光

高知大学 地域協働学部  
コミュニティデザイン研究室

# 構成

1.イベント概要	p.2
2.スケジュール	p.5
3.Day1	p.8
3-1.オリエンテーション&チーム形成	p.9
3-2.地域ビジネスカフェVol.3	p.11
3-3.フィールドワーク	p.13
①三島（轟地区）チーム	p.14
②キャンプ場チーム	p.16
3-4.アイデアワーク	p.18
3-5.轟地区の住民との意見交換・夕食交流会	p.20
4.Day2	p.22
4-1.朝食交流会	p.23
4-2.中間報告	p.25
4-3.ゲストによるアドバイス等	p.27
4-4.アイデアの整理・磨き上げ	p.29
5.最終発表	p.31

# 1. イベント概要

# イベント概要

- **名称** : 40010地域ビジネスキャンプ テーマ：食と観光
- **日時** : 2025年9月27日（土）9:00～20:00  
2025年9月28日（日）9:30～16:00
- **主催** : 四万十町役場 人材育成推進センター・にぎわい創出課
- **運営** : 高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤研究室）
- **内容・目的** : 四万十町内の様々なフィールドを巡りながら地域のリアルな課題に触れ、課題解決に向けたアイデアづくりの方法を学ぶ、合宿型のワークショッププログラム。

# イベント概要



## 40010 地域ビジネスキャンプ

テーマ:食と観光

この町で暮らし、働くなかで「地域の課題を自分なりに解決してみたい」と思ったことはありませんか？  
 「40010地域ビジネスキャンプ」は、四万十町内の様々なフィールドを巡りながら地域のリアルな課題に触れ、  
 その解決に向けたアイデアづくりの方法を学ぶ、合宿型のワークショッププログラムです。(日帰り参加OK!)  
 1日目は、地域ビジネスの実践者から学び、実際に現場に足を運ぶフィールドワークを通して課題を体験。  
 2日目には、仲間やゲストと共にアイデアを磨き上げ、最終発表で共有します。  
 自然の中で語り合いながら、自分の関心や強みと地域をつなげるヒントを見つけてみませんか？  
 キャンプに参加するような気持ちで、ぜひご参加ください。

### 2025 9/27 SAT 9:00 - 9/28 SUN 9:30

20:00 - 16:00

**選べる3つのコース**

**①道の駅で見つける  
“食”のアイデア**

食を扱うお店を巡りながら、地域の食料の魅力やどう活用できるかを考えます。観光や地域づくりに欠かせない「食」をテーマに、アイデアを広げていきます。

**②アクティビティから考える  
“観光”アイデア**

アクティビティの視点から観光について考え、町内に点在するキャンプ場を巡りながら、観光や魅力の活かし方についてアイデアを広げていきます。

**③三島漁港プランを  
考えよう**

三島キャンプ場を舞台に、既存の体験メニューや周辺のあるゆる資源を活用して、三島を満喫できるプランを考えます。この地域におけるキャンプ場のあり方や活用の可能性についても考えたいと思います。

**集合** 四万十町農村環境改善センター(高岡郡四万十町榊山町3-7)

**会場** 三島キャンプ場(高岡郡四万十町昭和144-1) ※会場までの送迎あり

**定員** 10名程度

**対象**

- 仲間と一緒にアイデアを出し合い、形にする体験をしてみたい人
- 地域資源を活かしたビジネスやプロジェクトに関心がある人
- フィールドワークを通じて、地域の現場や人と直接関わりたい人
- 地域のリアルな課題に触れてみたい人

※詳細は要出

**お問い合わせ先**

◎四万十町人材育成推進センター(吉村・中井)  
Tel:0880-22-3163 Mail:103060@town.shimanto.lg.jp

◎四万十町にぎわい創出課(有田・宮本)  
Tel:0880-22-3281 Mail:sayoko-koyo-40010@town.shimanto.lg.jp

お申し込みはこちら  
9/18(正午)まで



主催:四万十町 運営:高知大学地域協働学際コミュニティデザイン研究室

### スケジュール

※変更になる場合があります

**DAY 1** ※9:00-13:00は農村環境改善センターで行います

**9:00-9:45**  
オリエンテーション / チーム形成

**10:00-12:00**  
40010地域ビジネスカフェ Vol.3への参加

**12:00-13:00**  
ランチ交流会

**13:00-16:30**  
フィールドワーク(グループごと)

**16:30-18:00**  
アイデアワーク

**18:00-20:00**  
昭和(森)地区の住民との意見交換・夕食交流

**21:00~**  
フリータイム

**DAY 2**

**9:30-10:00**  
アイデアの中間発表

**10:00-11:00**  
ゲストによるアドバイス等

**11:00-14:00**  
アイデアの整理・磨き上げ

**14:00-15:40**  
アイデア発表(グループプレゼン)

**15:45-16:00**  
クロージング

フィールドワークはコースごとのグループで以下の場所を巡る予定です

**コース1**

- 道の駅 あぐり窪川
- ゆういんく四万十
- みどり市
- しまんとはまや
- 道の駅 四万十大正
- 道の駅 四万十とおわ

**コース2**

- 興津青少年旅行村
- 三塚キャンプ場
- リバーパーク森
- オートキャンプ場
- 「ウエル花夢」
- 四万十川・川遊び公園  
ふるさと交流センター

**コース3**

- 昭和(森)地区、  
三島キャンプ場周辺  
まち歩き
- かまどでのご飯炊きや乾  
焼きなど、各種メニューの  
体験、実施

**GUEST**

株式会社 代表  
**大下 宗亮氏**

大正町出身。  
小さい頃から自然の中で遊ぶことが好きで、環境保全を学ぶために高知大学農学部へ進学。卒業後は学部の授業も受けながら、自然再生を担い、河川工事(河川)に専従。卒業後は市内の環境コンサルタントに転職し、環境再生や自然再生、環境教育に従事する。その中で、環境と経済の両立を目指し、観光や自然の体験に参入。現在は「自然体験をまちづくりについて活躍の場を広げ、声を届けて来てくれてありがとうございます」。

一般社団法人リノビアデザイン 理事 / 高知大学大学院社会科学研究科 准教授  
**大西 正泰氏**

地域再生コンサルタント、元社会科教師。  
観光と自然を軸に、空や水等の再生などユニークな手法で40以上の起業を支援。特産品「緑茶(バス)」開発も手がける。  
理論と実践を融合させ、地域に根ざした経済循環を立ち上げる専門家。中心企業「自然環境再生」を運営。

**coordinator**  
コーディネーター

**須藤 晴**  
高知大学地域協働学際・環境学  
高知大学地域協働学際

**ご案内・注意事項**

- 宿泊費、食費は自己負担になります。
- 1日目昼食・夕食、2日目 朝食・昼食はこちらで準備・提供いたします。  
(予算については1日目の夕食は4,000円程度、その他は500円~1,000円程度になる予定です)
- イベント中の写真や動画は、SNSやホームページにて紹介する場合があります。あらかじめご了承ください。

## 2.スケジュール

# スケジュール Day1

Time	Theme	Contents
9:00-9:45	オリエンテーション/チーム形成	<ul style="list-style-type: none"><li>• 2日間のプログラムの説明</li><li>• 自己紹介/本日の気持ちの共有</li><li>• アイスブレイク（マシュマロチャレンジ）の実施</li></ul>
10:00-12:00	40010地域ビジネスカフェVol.3への参加	<ul style="list-style-type: none"><li>• キーノート①：NOT PRODUCTS FARM 横田岳夫氏</li><li>• キーノート②：株式会社StoryCrew代表取締役共同経営者 浅野聡子氏</li></ul>
12:00-13:00	昼食交流会	<ul style="list-style-type: none"><li>• 参加者同士の交流を目的とした昼食</li></ul>
13:00-16:30	フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"><li>• 三島キャンプ場およびその周辺地域（轟地区）を巡るチームと、町内の各キャンプ場を巡るチームの2班に分かれてフィールドワークを実施</li></ul>
16:30-18:00	アイデアワーク	<ul style="list-style-type: none"><li>• フィールドワークでの気づきを元に、アイデアを考えるワークを実施</li></ul>
18:00-20:00	轟地区の住民との意見交換・夕食交流会	<ul style="list-style-type: none"><li>• 轟地区の住民とビジネスキャンプ参加者との交流</li></ul>

# スケジュール Day2

Time	Theme	Contents
8:00-9:00	朝食交流会	<ul style="list-style-type: none"><li>三島キャンプ場での体験メニュー開発の一環として、朝食メニューのプロトタイプを実際に試作・試食を行った</li></ul>
9:30-10:00	アイデアの中間発表	<ul style="list-style-type: none"><li>Day2の流れの説明</li><li>Day1を踏まえた、現時点でのアイデアの内容を共有</li></ul>
10:00-11:00	ゲストからのアドバイス等	<ul style="list-style-type: none"><li>コーディネーターである高知大学の須藤と、ゲストの株式会社相愛の大下氏、吉備国際大学の大西氏による、アイデアに対するアドバイス</li></ul>
11:00-14:00	アイデアの整理・磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"><li>チームごとにフィールドワークやインタビューを通じた、アイデアの整理・磨き上げを実施。</li></ul>
14:00-15:40	アイデア発表 (グループプレゼン)	<ul style="list-style-type: none"><li>アイデアの最終発表</li><li>コーディネーター、ゲストからの講評・アドバイス</li></ul>
15:45-16:00	クロージング	<ul style="list-style-type: none"><li>イベント総括と記念撮影</li></ul>

# 3.Day1

## 3-1.オリエンテーション&チーム形成

# オリエンテーション&チーム形成

オリエンテーション&チーム形成では、40010地域ビジネスキャンプの概要について共有が行われた後、関係形成のためのワークが行われた。はじめに、人材育成推進センターの中井氏より開会挨拶が行われた。その後、コーディネーターの須藤より2日間の日程や本講座目的、フィールドワークに取り組む際のポイントについてレクチャーが行われた。次に、関係形成を目的としてマシュマロチャレンジが行われた。このワークでは乾燥パスタ、テープ、ひも、マシュマロが準備され、それぞれのパーツを組み合わせてタワーを作ることで役割分担やお互いの強みを活かす必要性を体感することができる。タワー制作は2回実施した。1回目の制作では、タワーの完成に至ったチームは1チームのみであった。この結果を踏まえ、須藤より、役割分担の重要性や、計画だけでなく実際に手を動かしながら試行錯誤することの必要性について解説が行われた。議論も大事な一方で、役割を分担し、常に手を動かしながら検証を重ねていくことが、ビジネスアイデアを作る際にも重要だと語られた。



## 3-2.地域ビジネスカフェvol.3

# 40010地域ビジネスカフェ Vol.3

40010地域ビジネスカフェのVol.3は、株式会社StoryCrew代表取締役共同経営者の浅野聡子氏と、NOT PRODUCTS FARMの横田岳夫氏に登壇いただき取り組み等の発表、トークセッション、フリートークが行われた。横田氏の取り組み等の発表では、地域おこし協力隊として四万十町に移住し、「カッコいい農業で世界を変える」をテーマとして事業に取り組んでおり、農業に対するイメージを変えるために地域資源を活用し、新たな価値を生み出す活動をしていることが語られた。浅野氏の取り組み等の発表では、東京での就職後、結婚を機に高知県へ移住し、高知県地産外商公社での勤務をする中で地産外商に関わる事業を立ち上げたいと思い会社を設立したことや、現在は、都会のオフィスに高知県産の食材を活用した、オフィス向けのフードサービスを提供する事業を運営していることが語られた。トークセッションでは、コーディネーターの須藤から2人に対して、「これまでの仕事を手放して高知へ行くことへの不安」や「人を巻き込むコツ」などをテーマとして深掘りが行われた。フリートークでは、参加者からゲストへ抱いた感想の共有や質問などが行われ、理解を深める時間となった。



全体の様子

横田氏の取り組み等の発表

浅野氏の取り組み等の発表

トークセッションの様子

フリートークで交流する参加者

フリートークの様子

## 3-3.フィールドワーク

# 三島（轟地区）チームのフィールドワーク旅程

---

Time	Theme	Contents
13:00-13:30	移動時間	<ul style="list-style-type: none"><li>• 三島（轟地区）への移動時間</li><li>• 各メンバーの自己紹介、本イベントへの期待などの関係形成</li></ul>
13:30-14:30	三島キャンプ場散策	<ul style="list-style-type: none"><li>• 渋谷氏と川口氏から三島キャンプ場の紹介</li><li>• 三島キャンプ場のロッジや周辺の観光アクティビティの見学</li></ul>
14:30-15:30	轟地区地区の散策	<ul style="list-style-type: none"><li>• 轟地区の山や畑の散策</li><li>• 轟地区の昔の通学路などの散策</li></ul>
15:30-16:30	郷土料理づくりなどの観察	<ul style="list-style-type: none"><li>• 田舎寿司や郷土料理を作っている様子の見学</li><li>• 郷土料理の歴史や伝承についての共有</li><li>• 郷土料理の試食</li></ul>

## フィールドワーク 三島（轟地区）

三島（轟地区）チームは、「三島満喫プランを考えよう」をテーマに、アイデア作りに向けた情報収集としてフィールドワークを実施した。フィールドワークでは、キャンプ場の管理・運営を行っている渋谷氏および川口氏より、三島キャンプ場の案内を受けるとともに、施設の特徴や運営の背景について説明を受けた。その後移動し、車内では、自己紹介や講座への期待などをそれぞれ共有し、参加者同士の関係を深めた。到着後は、三島キャンプ場の管理・運営に携わっている渋谷氏と川口氏が案内人となり、フィールドワークが行われた。まず、轟地区の歴史とキャンプ場として取り組んでいきたい内容について説明を受けた後、三島キャンプ場と近隣にある轟地区を巡るフィールドワークを実施した。フィールドワークの中では、地区で収穫される作物や魚、近隣のスポットや携わる団体の紹介、轟地区の歴史や人口区分について解説が行われた。移動中に、参加者からは「元々轟地区の真ん中では農業が行われていたのだろうか」、「なんでキャンプ場になったのだろうか」など、轟地区が現在の姿になった背景に関する疑問や意見が積極的に交わされており、その探究的な姿勢が印象的であった。



車内で交流、意見交換をする様子



三島キャンプ場を散策する様子



三島沈下橋より鮎釣りを見る参加者



三島地区を眺める参加者



轟地区の様子



轟地区の方が作った郷土料理

# キャンプ場巡りチームのフィールドワーク旅程

---

Time	Theme	Contents
13:30-14:00	興津青少年旅行村	<ul style="list-style-type: none"><li>興津海岸の見学</li><li>キャンプ場の見学</li></ul>
14:20-14:40	三堰キャンプ場	<ul style="list-style-type: none"><li>四万十町役場 中井氏より三堰キャンプ場の紹介</li><li>キャンプ場の見学</li></ul>
15:10-15:30	道の駅四万十大正 であいの里	<ul style="list-style-type: none"><li>駅長の鯖戸氏より道の駅大正の紹介</li><li>施設見学</li></ul>
15:40-16:30	オートキャンプ場 ウエル花夢	<ul style="list-style-type: none"><li>管理者よりオートキャンプ場ウエル花夢の紹介</li><li>施設見学</li></ul>

## フィールドワーク キャンプ場チーム

キャンプ場チームは、初めに車で移動しながら興津青少年旅行村へ向かった。このチームでは、主なメンバーが中学生、高校生、大学生であったことから、自己紹介を移動中に行った後、すぐに打ち解けることができた。人材育成推進センターの中井氏より訪問先に関する詳細な説明や豆知識の共有もあり、車内は和やかな雰囲気であった。興津青少年旅行村を訪問後、三堰キャンプ場に向かった。三堰キャンプ場は川のすぐそばにあり、高校生たちは河原に降りて流域の様子を積極的に観察していた。その後、道の駅四万十大正では代表の鯖戸氏より道の駅の特徴や現状の課題についてお話を伺い、参加者からは積極的な質問が行われた。最後にウエル花夢を訪れ、施設を管理している市川氏からお話を伺った。課題として、「広い敷地を少ない人数で管理することの難しさ」、「管理者の高齢化」などの問題から運営が厳しくなっていることが共有された。フィールドワーク中、参加者がワークショップに向けて各施設でメモを取っている姿が印象的であった。



興津海水浴場



興津青少年旅行村



三堰キャンプ場



道の駅四万十大正での質問の様子



ウエル花夢



施設説明の様子

## 3-4. アイデアワーク

# アイデアワーク

現地でのフィールドワーク終了後は、一つの場所に集合し、アイデアワークを行った。はじめに、付箋を使い現地で観察してきた地域の「良い点」・「課題」・「その他気づき」を書き出し、地図に貼り出してグループ内で共有を行った。その後、書き出したものをより詳細に情報を付け加え、解像度を上げていくために「課題深掘りワーク」を行った。ワークショップの様子を踏まえて、コーディネーターの須藤から課題からビジネスアイデアを検討する際の重要なポイントについてのインプットが行われた。インプットの後は、ワークで抽出した課題を解決するためのビジネスアイデアを作成した。作成したアイデアは、1分で相手に伝え、1分で質問を受けるワークを通じてブラッシュアップし、その内容を紙にまとめた。アイデア作成後は他の参加者のアイデアの中で良いと思ったものに星を付け全体の中で良いと思われるアイデアの抽出を行った。ワーク終了後は2日目の中間報告に向けて、どのような方向性で進めていくかを各チームで話し合っている様子が印象的であった。



## 3-5.轟地区の住民との意見交換・夕食交流会

## 轟地区の住民との意見交換・夕食交流会

ワーク終了後には、轟地区の住民とビジネスキャンプ参加者の夕食交流会が行われた。提供された夕食は、轟地区の住民が地域食材を使用して作った田舎寿司のほか、三島キャンプ場で体験プランとして提供されている米粉のシフォンケーキ、窪川地域で餃子屋Tangledを営む岩崎氏が今後店舗での販売を予定している水餃子などが振る舞われた。交流会には、三島キャンプ場の関係者や地元住民が参加した。そのほか、本事業の関係者で、Ekimae House SAMARUを経営する小野氏、Day2のゲスト講師の大西氏なども参加した。参加者は各テーブルで1日の振り返りを行いながら、普段関わる機会の少ない人々との交流を深めた。轟地区の地域住民の方々に、地域の歴史や現状、日常生活について話を聞く中でアイデアをブラッシュアップしている様子も見られた。また岩崎氏は、今後の水餃子店頭販売にむけて、アンケートを用いて参加者から味の感想などを収集していた。交流会の間でも、翌日の中間発表に備えて、引き続きアイデアの議論を行うチームの姿も見られた。



交流会で振る舞われた料理



地域の人々と交流する参加者



交流会全体の様子



地域の人々と交流する参加者



夕食の様子



地域の人々が作った田舎寿司

# 4.Day2

## 4-1.朝食交流会

# 朝食交流会

朝食交流会では、三島キャンプ場で提供を検討している朝食コンテンツを、プロトタイプとして参加者を対象に体験を実施した。キャンプ場スタッフと一緒に、羽釜で炊いたご飯と轟地区で作られた野菜や味噌を使った味噌汁の準備を行った。料理を作るために、参加者は米や野菜を洗い、皮むきなどを行った。その後、野外に設置された窯を使って炊飯と味噌汁作りを行った。釜での調理では、薪の量の調整や火を起こすための吹き込みなどを行うこととなった。参加者にとっては産地で採れたばかりの野菜を調理することに感動している方や焚火での調理に苦労しながらも楽しんでいる様子が見受けられた。完成後は、ご飯や味噌汁と地元で採れた梅やゴーヤなどの漬物が用意され朝食を食べた。朝食中は、地元住民の方々と野菜の特徴や食材の栽培方法に関する話や轟地区の特徴、川と食べ物の関連性に関する質問が行われ轟地区の地理や文化、日常生活への理解を深めようとする姿が印象的であった。



かまどでご飯を炊く様子



野菜を調理する様子



食材の調理を行う様子



轟地区の住民から調理方法を教わる様子



轟地区の住民から朝食の紹介



参加者全員で朝食をいただく様子

## 4-2.中間報告

# 中間報告

中間報告では、個人で考えたアイデアをグループ内で持ち寄り、グループ内でまとめたアイデアを報告した。それぞれのチームがどのような課題に着目し、誰に対してそのサービスを提供するのかなどの報告が行われた。それぞれのチームで中間報告がされた後は、今回のゲスト講師である吉備国際大学の西大氏、株式会社相愛の大下氏から、各チームに対して簡単な質問が投げかけられ、報告者はその質問に回答を行った。他のチームの報告を聞くことで参加者は「自分のチームのアイデアに不足している点は何か」などの気づきを得ており、学びあう様子がうかがえた。報告を終えた後は、ゲストからのアドバイスタイムに向けて、「どのようなアドバイスをもらうことができればアイデアがさらに深まっていくのか」、「アイデアのどの点を深める必要があるか」などについて、チームごとに議論・事前準備を行った。



報告をする参加者



サポートする大学生の様子



報告を聞く参加者



ゲストからのアドバイスの様子



報告の様子



報告を聞く様子

## 4-3.ゲストによるアドバイス等

## ゲストによるアドバイス等

中間報告後は、現在のアイデアについて、株式会社相愛の大下氏と吉備国際大学の西氏から個別に相談・アドバイスを行う時間が取られた。全体で4セッション実施され、コーディネーターの須藤への相談とグループ内での磨き上げを交互に繰り返す形で行われた。ゲスト講師からは、「サービスを利用するターゲットを明確に定めましょう」、「地域の人にとって無理が無く、良さを活かす形で構成しましょう」など、グループごとの特徴やアイデアが目指す方向性に合わせた助言がなされた点が印象的だった。各セッションの切り替え時には、コーディネーターの須藤から指摘を受けた点を基にアイデアの見直しが行われた。参加者からは、「ターゲットは都会暮らしの方で、リピートしてもらえる層を想定したい」、「このアイデアの収益性はどこにあるのだろう」などアドバイスを踏まえてより深く検討する様子が見られた。



アドバイスをを行う大下氏



アドバイスをメモに取る様子



アドバイスをを行う西氏



講師に質問を行う参加者



アイデアについて話し合う参加者



アドバイスをを行う様子

## 4-4. アイデアの整理・磨き上げ

# アイデアの整理・磨き上げ

ゲストによるアドバイスの後は、各グループに分かれてアイデアの整理・磨き上げと最終発表に向けた準備を行った。具体的なフィードバックを受けた直後ということもあり、各グループで最終報告に向けて活発な議論が行われていた。チームによってはアイデアの具体性を深めていくために、地域住民への聞き取り調査の実施、道の駅四万十とおわの利用客へのアンケート、販売商品の見学などを実施し、現場で情報を集めながらアイデアを練り上げていった。1日目のフィールドワークとは違った視点から自分たちのアイデアを見直し、最終報告に繋げていく有意義な時間となった。資料作成などでは、大学生スタッフがサポートに入り、各チームが自分たちのアイデアを魅力的に伝えるための工夫を凝らし、プレゼン資料やランディングページの作成を進めていた。また、昼食を食べながら和気あいあいとした雰囲気での議論を行っていた。



各チームでアイデアを考える様子



学生とともに討論する様子



現地視察をする様子



アイデアの壁打ちを行う様子



道の駅四万十とおわの商品



ランディングページ作成の様子

# 5.最終発表

# 最終発表

各グループでアイデアの整理と磨き上げを行った後、その成果をピッチ形式で最終発表した。発表では作成した資料を用いて、「アイデアを考えた背景」「誰の課題を解決するのか」「実現したい未来の姿」という観点から内容を説明した。提案には、三島キャンプ場を活用した観光コンテンツや商品開発のアイデアが含まれており、中間報告を踏まえてアイデアを変更したグループもあれば、既存の案を深掘りして発展させたグループも見られた。発表後はゲストの大西氏と大下氏、さらにコーディネーターの須藤から質問が投げかけられ質問応答の時間がとられた。全チームの発表と質疑応答が終了した後、ゲストとコーディネーターによる講評が行われた。講評では各アイデアを一つずつ取り上げ、今後どのように発展させていくかという視点で丁寧にコメントが行われた。最後に人材育成推進センターの中井氏が挨拶し、全体で集合写真を撮影して、2日目のビジネスキャンプは終了した。



ゲスト紹介



発表の様子



発表の様子



質疑応答の様子



質問をする様子



ゲストからのコメント

# お問い合わせ

- **四万十町役場**

**人材育成推進センター**

担当：吉村・中井

〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榊山町3番7号

E-mail：103060@town.shimanto.lg.jp

TEL：0880-22-3163 FAX：0880-22-3345

**にぎわい創出課**

担当：有田・宮本

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

E-mail：syoko-koyo-40010@town.shimanto.lg.jp

TEL：0880-22-3281 FAX：0880-22-5040

- **高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)**

担当：准教授 須藤順

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

Web：<https://www.communitydesign-kochi.jp/>

E-mail：j.suto@kochi-u.ac.jp

TEL：088-888-8077 FAX：088-888-8043

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます。

イベントに関する記事や  
情報を各種媒体を通じて発信しております。

公式note



公式オープンチャット



公式Instagram



公式Facebook



最新情報はぜひこちらのSNSからチェックしてください  
フォロー&いいねをよろしくお願いします！